

いい歌詞は 送り手と聞き手の 「共犯関係」にあり

嶋浩一郎 (博報堂/博報堂ケトル)



嶋浩一郎「言葉の力と効果が人一倍気になります」

歌詞、広告など人を惹きつける言葉はどのようにできているのか？
何を表現している言葉が人を惹きつけるのか？
さまざまなアスペクトの言葉を駆使し、PRをリードし続ける人物に
「いい歌詞」とはどういう言葉なのかを聞く。

歌詞はラジオ的な言葉
送り手と受け手の「共犯関係」を生む

—— 広告やPR、また本を書くときなど嶋さんはいろいろな言葉を駆使していると思います。歌詞という言葉はどのように映っていますか？

嶋浩一郎(以下、嶋) 仕事がら言葉の力、言葉の効果が一倍感になると自覚しています。その意味で、あえて無意味な言葉を使ったりもします。

歌詞を共感を呼ぶ言葉として考えてみたいと思います。共感には誰から誰への言葉であるかが大切になってきます。また、PV(プロモーションビデオ)などのビジュアル要素がない形で歌をとらえてみると、歌詞はラジオ的なものです。

テレビで人気のあるアナウンサーがラジオ番組をもったとき「みなさん、こんにちは」と始めてしまった……。これに対してリスナーからは「わかってないな」という反応が起きたことがあります。ラジオの呼びかけは二人称単数の「あなた」の方が気持ちよく聞こえる。複数形の「みなさん」ではダメなんです。テレビとラジオで言葉を使いわけているアナウンサー

く側が「あなたと私」の関係になる。このソーダ水の中をとる貨物船の光景は「あなたと私のものだ」という共犯関係が成立するということです。

私の見た雲は馬のかたち
あなた何に見えた

松任谷由実「心のまま
-As My Heart Leads-」
作詞/松任谷由実 1983年

この歌詞を聞くと、雲が何の形に見えるだろう



荒井由実(現・松任谷由実)「海を見ていた午後-One Afternoon By The Sea-」はアルバム「MISSLIM」(1974年)収録。作詞/荒井由実

もいて、ラジオでメールを読んだ後には「あなた、大変だったわね」と話しかける。そこで親密性が生まれて、アナウンサーとリスナーの間に、ある意味「共犯関係」が発生します。リスナーは「自分に話しかけてくれているんだ」という心理を抱くわけです。

ラジオは声と音しかないので「欠落のメディア」とも言われます。聞いている側には音声情報しか与えられていませんから、イメージをつかむために自分の想像力を使って「補助線」を引かないといけない。

「おじいさんがいました」と聞いたら、おじいさんの姿や雰囲気想像します。聞き手がクリエイティブティを発動して、見えないおじいさんのイメージを構築していきます。歌詞も同様で抽象的なものが多いですから、想像力を働かせることで具体的なイメージを立ち上げられます。イメージを自分のものにするために想像する。そのために補助線を引くんです。

ですから、いい歌詞というのは補助線を無数に引くことができる歌詞のことだと思います。何人もの人が自分の補助線を引いている。自分のイメージを作っていることが、共感の表れではないかと。

「焼肉効果」というのがあって、自分が自ら焼

肉を焼くと焼肉奉行になって語ってしまうものなんです(笑)。自分がクリエイティブティを発動したものは「自分ごと化」する。歌詞とラジオと焼肉は似ています。

松任谷由実言葉のインスタグラマー

——印象に残っている歌詞を教えてください。

嶋 松任谷由実さんのことを僕は「言葉のインスタグラマー」と呼んでいて、歌詞から風景を想像させます。唯一の情報である歌詞に補助線を何本も引くことができる。聞いた人、一人ひとりの光景、ビジュアルのイメージが立ち上がっているはず。荒井由実時代の歌です。

山手のドルフィンが静かなレストラン
晴れた午後には遠く三浦岬も見える
ソーダ水の中を貨物船がおる
小さなアワも恋のように消えていった

荒井由実「海を見ていた午後
-One Afternoon By The Sea-」
作詞/荒井由実 1974年

補助線を引くことで、歌詞を発信する側と聞